

皆様、おはようございます。

先週に続いて黙示録を読み進めてまいりましょう。

9 あなたがたの兄弟であり、共にイエスの苦難と御国と忍耐とにあずかっている、わたしヨハネは、神の言とイエスのあかしとのゆえに、パトモスという島にいた。

年齢は90歳を過ぎ、共に主に仕えた人たちを皆天に送り、エペソから海路で14時間、エーゲ海のパトモス島に島流しになったヨハネは今もなお、「神の言とイエスのあかしとのゆえに」奮闘していました。この大使徒は、偉ぶることもなく、自らを「あなた方の兄弟」と呼んでいます。

それは、手紙の読み手である兄弟たちも、「共にイエスの苦難と御国と忍耐とにあずかっている」からです。

神の言とイエスのあかしとのゆえに、パトモスに流されているヨハネは、またイエス様と共に苦難と御国と忍耐とにあずかっていました。

イエス様が私たちのために担ってくださった苦難。それに比べれば、遠く岩だられの離島に流されてあったとしても何であろうか。御国を慕い求め、御国の栄光を信じて、やがてそこに迎え入れられることを信じて忍耐する。キリストと共にその忍耐にあずかり、共に復活の御力にあやからせていただく仲間として、兄弟たちと語りかけるヨハネでした。

そんなヨハネは主の日に御霊に感じました。主の日とは日曜日の事です。ペンテコステの日に聖霊がくだり、御霊の力によって弟子たちが強められた、あの日から70年、ヨハネは聖霊の中に沈み込んでいました。聖霊に抱かれ、そして後ろの方で高らかなるラッパの音色を聞きました。

11 その声はこう言った、「あなたが見ていることを書きものにして、それをエペソ、スミルナ、ベルガモ、テアテラ、サルデス、ヒラデルヒヤ、ラオデキヤにある七つの教会に送りなさい」。

12 そこでわたしは、わたしに呼びかけたその声を見ようとしてふりむいた。ふりむくと、七つの金の燭台が目についた。

エペソ、スミルナ、ベルガモ、テアテラ、サルデス、ヒラデルヒヤ、ラオデキヤ、これらの都市を線で結ぶと、ちょうど一まわり、円の形になります。金の燭台とは、後で教会の事であると示されます。この円形に並ぶ七つの教会が七つの金の燭台にたとえられています。尊い値高い主の教会は、主の血潮によって贖われて召し出された者たちの教会は、金の燭台としてこの地域にそびえています。

13 それらの燭台の間に、足までたれた上着を着、胸に金の帯をしめている人の子のような者がいた。

それらの燭台の間に、真ん中に、人の子のような方、主イエス様がおられます。皇帝崇拝のふきすさぶ迫害の風の中、神の言とイエスのあかしとのゆえに共にイエスの苦難と御国と忍耐とにあずかっている教会のために、主がその真ん中にいて下さいます。

14 そのかしらと髪の毛とは、雪のように白い羊毛に似て真白であり、目は燃える炎のようであった。

「足までたれた上着を着、胸に金の帯をしめている」とは、祭司の服、王の帯を感じさせます。王であり祭司であるイエス様が、執り成しと力とをもって臨んでいて下さいます。

「そのかしらと髪の毛とは、雪のように白い羊毛に似て真白であり、目は燃える炎のようであった」

そのかしらと髪の毛は、純白の雪のように、羊毛のように輝いています。そして目は、すべてを透徹して見抜くように炎のように輝いています。

詩篇 139:1 主よ、あなたはわたしを探り、わたしを知りつくされました。

139:2 あなたはわがすわるをも、立つをも知り、遠くからわが思いをわきまえられます。

139:3 あなたはわが歩むをも、伏すをも探り出し、わがもろもろの道をことごとく知っておられます。

139:4 わたしの舌に一言もないのに、主よ、あなたはことごとくそれを知られます。

139:5 あなたは後から、前からわたしを囲み、わたしの上のみ手をおかれます。

139:6 このような知識はあまりに不思議で、わたしには思いも及びません。これは高くて達することはできません。

139:7 わたしはどこへ行っても、あなたのみたまを離れましょうか。わたしはどこへ行っても、あなたのみ前をのがれましょうか。

139:8 わたしが天にのぼっても、あなたはそこにおられます。わたしが陰府に床を設けても、あなたはそこにおられます。

139:9 わたしがあげばのの翼をかって海のはてに住んでも、

139:10 あなたのみ手はその所でわたしを導き、あなたの右のみ手はわたしをささえられます。

139:11 「やみはわたしをおおい、わたしを囲む光は夜となれ」とわたしが言っても、

139:12 あなたには、やみも暗くはなく、夜も昼のように輝きます。あなたには、やみも光も異なることはありません。

139:13 あなたはわが内臓をつくり、わが母の胎内でわたしを組み立てられました。

139:14 わたしはあなたをほめたたえます。あなたは恐るべく、くすしき方だからです。あなたのみわざはくすしく、あなたは最もよくわたしを知っておられます。

139:23 神よ、どうか、わたしを探って、わが心を知り、わたしを試みて、わがもろもろの思いを／知ってください。

139:24 わたしに悪しき道のあるかないかを見て、わたしをとこしえの道に導いてください。

15 その足は、炉で精錬されて光り輝くしんちゅうのようであり、声は大水のとどろきのようであった。

「炉で精錬されたしんちゅう」しんちゅうは、銅と亜鉛の合金ですが、その炉の温度は1200度を超えるものです。そのような高温の中にさらされ、その輝きを増すしんちゅうのように、主はその足を、その歩みを、苛烈な苦しみの中にささげられました。そして主は父なる神様の前に従いつくされました。その声はエーゲ海の岩だらけの島に激しく打ち付ける波にもましてとどろき渡りました。

16 その右手に七つの星を持ち、口からは、鋭いもろ刃のつるぎがつき出ており、顔は、強く照り輝く太陽のようであった。

口から鋭い諸刃のの剣が出ているとは、なんという恐ろしい、戦慄のお姿でしょうか。

ヘブル 4:12 というのは、神の言は生きていて、力があり、もろ刃のつるぎよりも鋭くて、精神と靈魂と、関節と骨髄とを切り離すまでに刺しとおして、心の思いと志とを見分けることができる。

4:13 そして、神のみまえには、あらわでない被造物はひとつもなく、すべてのものは、神の目には裸であり、あらわにされているのである。この神に対して、わたしたちは言い開きをしなくてはならない。

主の鋭き御言葉は、心の思いと志とを見分けます。心の中のわずかなはかりごとをも見分けて、外科手術のように病巣をえぐり取ります。しかしこれは私たちの心の奥深く、魂に巣くう罪から私たちを切り離すための力ある神様の御言葉による救いときよめの働きです。私たちは手術室の中にいくらたくさんのメスやドリルがあったとしても、それは私たちの命を助けるための道具であることを知っています。

139:23 神よ、どうか、わたしを探って、わが心を知り、わたしを試みて、わがもろもろの思いを／知ってください。

139:24 わたしに悪しき道のあるかないかを見て、わたしをとしえの道に導いてください。

このように詩篇にありましたように、私を探り、わが心を知り、悪しき道から引き返させていただき、としえの道、祝福の救いの道に導かれることが私たちの幸せであることを私たちは知っています。

その顔は、強く照り輝く太陽。その主を避ける者には闇がありますが、主に向かうものは明るく照り輝く救いの光があります。

ヨハネ 3:16 神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。

3:17 神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく、御子によって、この世が救われるためである。

3:18 彼を信じる者は、さばかれない。信じない者は、すでにさばかれている。神のひとり子の名を信じることをしないからである。

3:19 そのさばきというのは、光がこの世にきたのに、人々はそのおこないが悪いために、光よりもやみの方を愛したことである。

3:20 悪を行っている者はみな光を憎む。そして、そのおこないが明るみに出されるのを恐れて、光にこようとはしない。

3:21 しかし、真理を行っている者は光に来る。その人のおこないの、神にあってなされたということが、明らかにされるためである。

「顔は、強く照り輝く太陽のようであった」とありますこの言葉は、原文ギリシャ語では、「太陽のように、その顔はイエス様の力の中で輝いている」という意味になります。太陽のように強く照り輝く、その源はイエス様にある力、強さ、実行するための力、超自然的な奇跡、能力、可能性、能力、備わった方法にあります。不可能を可能にするこれらの能力によって御子の顔は太陽のように強く輝いているのです。これらもろもろの御子の神様としてのお姿は、何という存在感であり、威厳なのでしょう。

1:17 わたしは彼を見たとき、その足もとに倒れて死人のようになった。すると、彼は右手をわたしの上において言った、「恐れるな。わたしは初めであり、終りであり、

1:18 また、生きている者である。わたしは死んだことはあるが、見よ、世々限りなく生きている者である。そして、死と黄泉とのかぎを持っている。

1:19 そこで、あなたの見たこと、現在のこと、今後起ろうとすることを、書きとめなさい。この主は、かつてヨハネを愛して3年物時を共に過ごされた主でしたが、この時、裁き主として来られるかのように峻厳な主は、あの山の上の栄光の表れの時に勝って神々しいお姿

でした。

彼はすっかり恐れてイエス様の前に死人のように倒れました。

しかし主は恐れるなど語りかけました。

17 「恐れるな。わたしは初めであり、終りであり、

18 また、生きている者である。わたしは死んだことはあるが、見よ、世々限りなく生きている者である。そして、死と黄泉とのかぎを持っている。

19 そこで、あなたの見たこと、現在のこと、今後起ろうとすることを、書きとめなさい。

死んだことはあるが生きている。私たちの罪の贖いのために死に、復活され、代々限りなく生きている。この私のことを、見たままを書きなさい。この輝きを記し、この救いと慰めを語りなさい。私は死と黄泉とのかぎを持っている。世の何物をも恐れず、私を畏れなさい。

20 あなたがわたしの右手に見た七つの星と、七つの金の燭台との奥義は、こうである。すなわち、七つの星は七つの教会の御使であり、七つの燭台は七つの教会である。

七つの星とは、教会に仕える御使い。すなわち教会の牧師であり働き人です。星も燭台も、それ自体は輝くことは出来ませんが、主の輝きにより、罪の暗闇の中であって光を届けるために立てられています。星と金の燭台。私たちも尊く用いられる星と燭台として、火の精錬の中にも、イエスの苦難と御国と忍耐ともめげることなく、神の言とイエスのあかしとのゆえに、パトモスをも恐れずに進みゆきたいと願います。

ビリピ 2:13 あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである。

2:14 すべてのことを、つぶやかず疑わないでしなさい。

2:15 それは、あなたがたが責められるところのない純真な者となり、曲った邪悪な時代のただ中であって、傷のない神の子となるためである。あなたがたは、いのちの言葉を堅く持って、彼らの間で星のようにこの世に輝いている。

2:16 このようにして、キリストの日に、わたしは自分の走ったことがむだでなく、労したこともむだではなかったと誇ることができる。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。苦難と、強いられる忍耐は日々大きいものがありますが、助け合い、祈り合える兄弟姉妹

の絆に感謝いたします。どうか火で精錬され輝きを放つあなたの光の中、私たちを導き、助け出してください。死んでもなお生きるお方の、今生きていらっしゃるお方のお力によって私たちを輝かせ、あなたの尊きご使命の中、私たちを今週もお導き下さい。子供からお年寄りまで、あらゆる年齢の方々が、この時こそ教会にて、イエス・キリストに出会うことができますようお願いいたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン